一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造

－小学校図画工作科における「問い」と「振り返り」の工夫を通して－

指導主事　井上　善朗　　研究協力員　山都町立蘇陽小学校　教諭　石田　貴子

１　はじめに

本実践における学習が，児童の「持続可能な社会や豊かな人生」にどのようにつながっているかという観点から述べる。

今回の実践で使用した「領内名勝図巻」は，江戸時代後期に作成された図巻で矢部地区にある滝や蘇陽小学校区にある下山七ミカドなど山都地方の豊かな自然の絵が収められている。本学習を通して，児童の主体的な活動を促すとともに，造形的な見方・考え方を働かせ，「景色をより深く鑑賞する能力」を育成し，その学びや成長について実感させることがねらいとなる。

また，この取組により，地域のよさや面白さに気付き郷土愛を高めさせ，学校教育目標である「ふるさとを大切にし，心豊かでたくましく，自ら学ぶ子どもの育成」につなげることにより，これからの社会で未来の創り手となる児童の育成につながると考える。

２　研究の視点について

(1) 視点１「『見方・考え方』に着目した問いの工夫」について

図画工作科の「見方・考え方」については，新学習指導要領解説図画工作編に，「造形的な見方・考え方」として次のように示されている。

> 感性や想像力を働かせ，対象や事象を，形や色などとの造形的な視点で捉え，自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと

上記のような，児童の「見方・考え方」を働かせるためには，教師の発する「問い」が重要である。

「問い」に対して児童が感性や想像力を働かせながら大まかなイメージを持つだけでなく，造形的な視点を明確にしたイメージや考えに至るように，「児童はどのような根拠があってそう感じたのか」「思考過程の中で造形的な見方･考え方がどのように働いているのか」を教師が意識しておく必要がある。

特に図画工作科の指導においては，材料や作品，出来事などを，形や色などの視点で捉えることが重要である。新学習指導要領解説図画工作編には，「造形的な視点」は図画工作科ならではの視点であり，図画工作科で育成を目指す資質・能力を支えるものであると明記された。また，児童の実態を踏まえてその日の学習時間及び題材全体の構成を工夫することで，形や色，イメージ等に着目した「問い」を解決するために，自己と対話したり，他者と協働したりする学習活動の充実が図られると考えた。

(2) 視点２「学びを実感する振り返りの工夫」について

学習時間を通して，児童が自身の学びや成長を実感し，次の活動へのつなぎや学習事項の定着を目指し，「学びを実感する振り返りの工夫」を設定した。

学習内容の深まりや，他者との協働的活動による課題解決学習の際に，自身の学びを児童自ら認識できるようにすることが重要であると考えた。児童に学びや成長を実感させるために２つの取組を行った。１つは教師側から学びの価値を示すことであり，もう１つは題材全体の学習シートや児童同士の対話から児童自身が学びの価値に気付くことである。

そこで，授業を行う教師やゲストティーチャーである学芸員が適切な場面で学びの成果を価値付けることとした。また，児童が学びの価値に自ら気付くことができるよう学習シートの内容や見せ方を工夫し，授業始めに絵の第一印象を，授業終わりに絵の「形や色のよいところ」「形や色の面白さ」等の視点を持って振り返らせるとともに，友だちの発表から「新しい視点に気付いた」「自分の見方や感じ方が広がった」等の自己評価を行うようにした。

３　研究の実際

検証授業　小学校第４学年
題材名　「見てみよう！かいてみよう！図巻物」（領内名勝図巻）

(1) 本題材の授業設計

本題材は，小学校学習指導要領第３学年及び第４学年Ｂ鑑賞「ア　自分たちの作品や身近な美術作品や制作の過程などを鑑賞して，よさや面白さを感じ

ること」「イ　感じたことや思ったことを話したり，友人と話し合ったりするなどして，いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること」を目指した学習である。

「領内名勝図巻」の作品鑑賞や図巻づくりなどの活動を楽しみながら，作品のよさや面白さ，表現の工夫などに関心を持ってみるとともに，それらに対する感覚を高めることをねらって設定している。なお，山都地方の豊かな自然を授業に取り上げていくことにより，児童の学習意欲を喚起し，地域のよさにも気付かせていくことができると考える。また，本題材において鑑賞を行うことは，目指す資質・能力である「思考力・判断力・表現力」の育成を通して学校教育目標である「ふるさとを大切にし，心豊かでたくましく，自ら学ぶ子どもの育成」の実現につながるものであると考えた。

(2) 題材の目標

作品鑑賞や図巻づくりなどの活動を楽しみながら，作品のよさや面白さ，表し方の工夫などを感じ，ものの見方や考え方を広げることができる。

(3) 題材計画

題材を貫く問い：山都の景色の今と昔を比べ，そのよさや面白さとは何か探ろう。

第１次　「領内名勝図巻」に描かれている形や色の創造的な特徴をもとに，作品のよさや面白さ，表し方の工夫などについて関心を持ってみる。

第２次　「山都名勝・名物図巻を作ろう」と銘打ち，身近にあるお気に入りの場所や物などを絵に表し，グループで楽しく図巻づくりを行う。

(4) 研究の視点

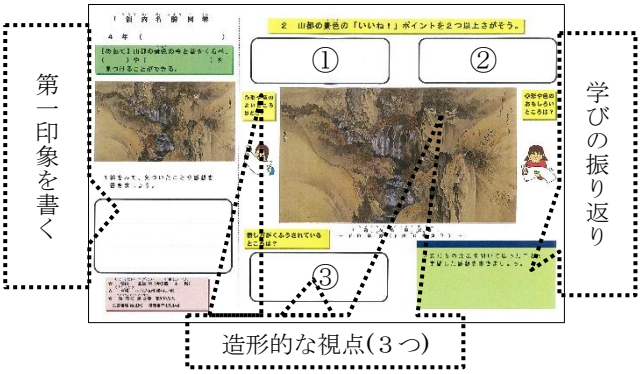
①　〔視点１〕

題材を貫く問いを設け，その問いを解決するために対話型鑑賞法を用いて，お互いの見方・感じ方を伝え合い，多くの視点から山都の風景を見ることで，鑑賞する能力を高める。

②　〔視点２〕

教師やゲストティーチャーである学芸員から，児童に造形的な言葉による声かけをする等して，児童の学びや成長に気付かせる。

学習シートの中に「①形や色のよさ」「②形や色の面白さ」③「表し方の工夫」にわけて振り返りを記録し，鑑賞する能力の高まりを実感させる。



(5) 授業の実際

①　導入

児童の興味関心を引き出すために，まず作品との出合わせ方を工夫した。風呂敷で覆われた図巻物を見せ，わくわくする気持ちを高めていく。この場面では図巻物をあえて開かず，学芸員に渡し学習の後半に見せることを告げる。その後，カバーをかけた絵（印刷物）に付けたのぞき窓に注目させ，何が描かれているか児童に問いかけた。

Q　何が描いてあるかな。
A　何だろう？通潤橋が描いてある！あー！通潤橋
Q　季節はいつだろう。
A　春？夏？秋―！紅葉が見られた。もみじがあった。

この一連の流れにより児童の学習意欲を十分高めた上で，本時のめあてを提示した。

（めあて）山都の景色の今と昔を比べ，よさや面白さを見付けることができる。

②　展開

めあてを掴んだ後，それまでの児童の思考とめあてをつなげるために，教師から絵のいいところは何かを率直に児童に問いかけた。その問いからまず児童の自由な発言を引き出し，その中から造形的な見方・考え方が働いている発言を取り上げることで絵を鑑賞していく視点を絞り込んでいった。

Q　この絵のいいなと思うところを見付けてほしいな。
A　川？滝の近くに緑がいっぱいあってきれいだし，近くにはいろいろな色があるし美しさが感じられ，きれいだなと思った。
教師の返し
色について，いいところを言ってくれましたね。

色や形に関する意見が出されたところで，児童は折り曲げられていた学習シートを表面にし，絵に関

して気付いたことや第一印象を記入した。教師は第一印象が書かれたことを確認した上で，本時の中心となる「問い」を児童に投げかけた。

問い：山都の景色の「いいね！」ポイントを２つ以上さがしてみよう。

①形や色のよいところはどこか。②形や色の面白いところはどこか。③表し方が工夫されているところはどこか。児童から引き出された３つの視点から，「いいね！」ポイントを探すことを知り，活動の内容を理解した。また，現在の山都町下山水源の様子を動画や写真で示し，児童の意欲を持続させるとともに，絵の細かな表現に気付くよう支援した。

児童はそれぞれの「いいね！」ポイントを学習シートに書き，教師は互いの考えを交流する時間をとった。児童からは以下のとおりの考えが出された。

A：〔第一印象〕私は色をいっぱい使わず，同じ色で順番を考えながら描いたと思います。
A：〔色のよいところ〕私は全部同じ色ではなく，色を少しずつ濃くしたり，色を足したり薄くしたりしていると思います。
B：〔第一印象〕滝が，迫力があって動き出すよう。
B：〔形の面白いところ〕カクカクに描いたり，滑らかに描いたりしている川の流れがこんなふうになっているから本当に動くように見える。

９人の児童の発表には，自身が感じた第一印象から変容した意見や感想が出され，造形的な見方・考え方を働かせて思考したことが伺えた。

次に児童の発表を踏まえて，学芸員から話を聞く時間を設定した。「なぜ領内名勝図巻が描かれたのか」等の新たな知識を与えたり，児童の発言に関連付けた話をしたりして，児童の学ぶ意欲をさらに高めた。

児童は学芸員から紹介される一枚一枚の絵や現在の写真に強い関心を示し，歓声やつぶやきを交えながら話を聞いた。

教師は学芸員からの話が終わると，授業の冒頭に見せた図巻物を広げ，図巻の全体鑑賞をすることを告げた。児童は想像していたものよりも図巻が長いことや関心の高い絵が描かれていることに気付き，驚きを持って見ていた。そこで，次の活動として，教師はこの時間の学びを生かしピンクの付箋紙に気付きや考えを書き，絵に直接貼り付けていくように話した。また，イエローの付箋紙には学芸員への質問を書くようにし，対話的な学びを促す手だてとした。

学芸員との対話については

児童：これは何ですか？金箔ですか。
学芸員：そうです。金箔です。きらきらするように貼り付けてあります。よく気が付きましたね。

といった対話のように，付箋紙を貼り付けてあるところに学芸員が移動し，学芸員との個別対話を行った。質問したことが分かり，学ぶ喜びを感じる児童の姿が数人見られた。

約５分間の対話的な学びを終え，自分の席に戻り，教師から本時のめあてについてもう一度児童に伝えた。そして，図巻から「いいね！」ポイントを２つ以上探すことができたかを児童に問いかけたところクラスのほとんどの児童が手を挙げていた。

③　整理

児童は本時の学習を振り返り，学習シートに「友だちの発表を聞いて思ったこと」や「学習した感想」を書いた。書かれた内容は次のとおりである。

・友だちの誰かは忘れたけど，細く線を描いたり，太く線を描いたりしているとか，○○さんの水しぶきの話を聞いて自分は気付いていなかったからすごいと思います。
・全部細かく描いていて，１０メートルくらいの巻物が１５本もあると聞いてびっくりしました。そのうち２本は山都町なので，やっぱり山都町はいいところがたくさんあると思います。

対話的な活動により，この時間まで気付かなかった視点で絵を鑑賞し，造形的な見方・考え方を働かせ

ながら気付きや考えを書いたり，発表したりする児童の姿が見られた。また，ふるさと山都町のよさや美しさに改めて気付く時間ともなった。

④ 第二次「山都名勝・名物図巻を作ろう」

本題材の第二次として，鑑賞から表現に学びをつなげる図巻づくりを行った。前時の活動を通して，鑑賞の力を高めたことを伝え，この力を表現に生かしていくことを伝えた。表現の前にどのような思いを持ち，どこを選び，どのような絵を描きたいのかを発表，確認させ，活動の見通しを持たせた。また，鑑賞の時間に学んだ形や色の表し方を振り返らせ，知識を表現につなげる指導を行った。約２時間の表現活動で約５ｍの作品が４作品製作された。

(6) 検証結果と考察

① 学習アンケートより

表１は，実践の前後に調査した質問紙調査の結果である。

表１ 「学習に関するアンケート」結果より抜粋（n=30）４件法

項目	質問	事前	事後	差
2	あなたは，図画工作科の授業で学んだことが，自分の将来につながると考えている	3.57	3.79	0.22
10	あなたは，図画工作科の授業を通して，友達の考えを知ることで，新しい考えを持ったり，考えをよりたしかにしたりすることができている。	3.64	3.79	0.14
15	あなたは，図画工作科の授業を通して，自分の思いや考えを生かしながら，新しい考えをもつ（アイデアを思いつく，作品を作る）ことができている。	4.00	3.79	−0.21

項目２については３（どちらかといえばそう思う）から４（そう思う）に変容した児童が３人増え，平均値が0.22ポイント向上した。図画工作科での学習が単に作品を製作したり，鑑賞したりすることで完結せず，それぞれの将来につながる学習であることが意識付けられつつあると考える。

項目 10 については，３から４に変容した児童が２人増え，平均値が 0.14 向上した。教師が絵を鑑賞する視点を絞り込み，視点を持った児童の発言により，それまでの自分にはなかった気付きや学びがあったことを示している。

項目 15 については４から３に変容した児童が３人おり，平均値が 0.21 低下した。この結果については，鑑賞の授業後，実施した表現の授業で学んだ内容を表現に十分に生かす機会がなかったと考える。

② 学習活動より

検証授業後に学習内容についてインタビューを行ったところ次のような発言があった。

> 楽しかったです。他の人の感想を聞いて，もっと詳しく知れたし，昔の山都町のいろいろな景色を見て面白かったです。昔に描かれた絵を見て，今度絵を描くときに工夫しながら，遠近感などを考えながら描きたいと思いました。ふるさと山都町は自然豊かだし，秋は赤や黄色の広葉樹もあるし，水もおいしいし空気もきれいだからいいところだと思います。

児童の発言にはまず「楽しかった」「面白かった」との言葉があり，主体的に学んだことが伺える。また，造形的な視点を持ち山都町の景色を対話しながら鑑賞したことで，一人学びでは気付けない学びがあり，自分の学びを深めることができたと考える。

４ 研究のまとめ

造形的な見方・考え方に着目した問いの工夫をしたことにより，児童の探究心が芽生え，主体的に学習に臨む姿が見られ，造形的な視点を持ちながら対話型鑑賞法を用いたことで，鑑賞する力の向上につながったと考える。また，学芸員からの造形に関する言葉かけや学習シートの視覚的な工夫（思考過程の可視化）により，児童が学びを振り返り，自らの成長を実感していたと考える。加えて，児童のアンケート結果から「ふるさとを一層大切にしたい」との思いを11人の児童が書いており，豊かな学びであったと考える。

鑑賞に関しては一定の成果が見られた反面，学んだ内容を表現に十分生かせていない状況がある。学習指導要領解説には「『Ａ表現』及び『Ｂ鑑賞』の指導を通して，児童一人一人の資質・能力を育成することになる」との記載があり，今回の実践だけで資質・能力を育成すると考えるのではなく、「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」のつながり，題材のつながり等を重視して実践を積み重ねていく必要がある。

《引用・参考文献》

・文部科学省(2017)「小学校学習指導要領解説　図画工作編」
・文部科学省(2016)中央教育審議会答申「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」